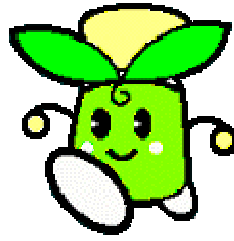


# 雑 桜 (わかざくら)

～南中校長室より～

平成 28 年度 NO. 7

平成 28 年 10 月 4 日



*Be Proud Of Us*

2 学期になり、一か月たちますが、落ち着いた雰囲気の中で、学習や部活動に取り組んでいます。「笑顔で挨拶」「読書で心の栄養補給」「家庭学習で学力アップ」「ほめてほめられ BE PROUD OF US」「地域行事に LET'S GO」という南中 5 つの約束の実現のため、着実な生活をしてきていると思います。9 月 16 日【金】には文化発表会、10 月 1 日【土】には体育大会があり沢山の保護者や地域の方々に参観していただきました。様々な行事の中で、友達のよさや特徴、個性を知り、互いに大切にしたい、真に楽しいと思える学校にしていきたいと思っています。

～南中祭～

今年のスローガンは、「頂上決戦」(Challenge For The Top) です。何事もトップを目指して、最大限の努力をすることが大切です。TOP には 2 種類あります。「人と比べて一番になること」と「自分自身の持つ力の最大限を發揮して自分の中での 1 番になること」。例え、残念な結果になったとしても、二種類のトップを目指して精一杯頑張ったという想いは今後の生活の大きな糧になります。

## ○ 舞台発表

吹奏楽部のオープニング演奏。楽しい演出を入れながら、すばらしい音色を聞かせていただきました。教師も参加させていただきましたが「教育」は本来、「共育」することによって生徒の心をうつ「響育」につなげていくべきものだと思います。これからも「共育」と「響育」に力を注いでいきたいと思っています。「食育防災」「英語暗唱」「私の行き方発見」「The 南中ソーラン」「ガマの中で」、「沖縄の風そして「モザイクアート」の紹介とそれぞれ努力の成果が見られました。特に、「ガマの中で」はさすが3 年生とうならせられました。

## ○ 展示発表

非常にレベルの高さを感じました。残念ながら、時間が少なく、すべてをじっくりと見ることができませんでしたが、日々の学習の成果が出ていました。「我以外皆教師」と言います。私自身、本当に学ぶことがたくさんありました。そして、生徒たちの「無限の可能性」を再認識し、すごいなあと感じました。また、例年のお茶会、図書館クイズラリーに加え、フィルムコート実習、ホーバークラフト、剣道試技等にも多くの参加者がありました。

## 3 年生、進路に向けて (9 月 23 日)

23 日に「校内実力テスト」が行われました。進路決定に向け、大切な時期になってきました。その時々結果に一喜一憂するかもしれませんが、希望する高校に行けるか、かなり点数にこだわるかもしれません。最終的には、私たち教師は、その生徒の特徴や・「良さ」が生かされ、将来に向けての成長度をも考えて、保護者や生徒と向き合っていくことが大切だと考えています。今回、うまくいかなかった生徒も、最後まで、目標に向かって頑張れるような努力が継続できるように、各家庭でも支えてあげてください。なお、「学校説明会」や「体験入学会」には積極的に参加し、直接、肌で学校の雰囲気をすることは大切です。また、奨学金制度をはじめ、不安や疑問に思われることがあれば、遠慮せずに学校までお問い合わせください。(奨学金制度を利用すれば、私立高校への進学も全く、あきらめたものではありません。)

全然手が届かないものに、挑戦しても辛いだけです、ちょっと背伸びして、ジャンプしてみたら手が届きそうなものには挑戦意欲がわきます。私がいつも意識しているのは、ちょっとだけ背伸びして、ジャンプしてみたら届きそうな目標設定をすること。そのためには、手をいっぱい伸ばして背伸びをしてみます。その状態でどこまで手が届くのかを確認してみる。どれくらいジャンプすればいいのかを、その状態から推測してみる。あとは、ジャンプしてみるだけ。当たり前のようなようですが、この中で重要なのは、立ち上がり、上に向かって思いきり手を伸ばしてやること。縮こまることになれてしまって、顔を上げて、腕を伸ばすことすら忘れていた人も多いためです。言葉を換えると目標を持たずに生きている人が多いということかも知れません。あなたは最近、顔を上げ、腕を伸ばし、背伸びして、自分の目一杯の能力を確認してみましたか。そして、そこから背伸びして、ジャンプしてギリギリ届くかどうかの目標を掲げていますか。自分の目一杯の少し上、そこを目指し続けると、やがて、次の目標が、かつての自分の夢だと思っていた舞台だったりします。ギリギリ手を伸ばし、ジャンプして指がかかる先が、かつての自分が夢だと思っていた舞台である。そして、また次の夢が生まれる。夢は知ることから始まる。視点が高くなり、視野が広がると夢も広がります。一度きりの人生、限りある命、さらなる高見を目指して、微力を尽くしていきませんか。まずは、顔を上げ、腕を目一杯上に上げ、背伸びをして、自分がどこまで出来るのか確認してみませんか。そして、ほんのちょっとその上を目指してみましょ。すべての人に成功は約束されていませんが、成長は約束されています。数年先の自分が楽しみなそんな毎日を過ごしていきたいものです。私の目標は、TOEIC 900点、剣道6段、サッカー一年輪ピック出場。あなたの次の目標は何ですか？その目標達成のための背伸びとは？ジャンプとは？一度考えてみてはどうでしょうか。

## ピグマリオン効果

ピグマリオン効果は、1964年に米国の教育心理学者ロバート・ローゼンタールによって提唱された、「人間は期待された通りの成果を出す傾向がある」という主張。

担任と生徒イメージある実験で、「成績の優秀な生徒達を集めたクラス」と「成績の悪い生徒達を集めたクラス」を作り、それぞれのクラスの担任に逆のことを言ってクラスを担当させます。つまり、「成績の良い生徒のクラス」の担任には「あなたが担当するクラスは成績の悪い生徒のクラス」だと告げ、「成績の悪い生徒のクラス」の担任には「あなたの担当するクラスは成績の良い生徒のクラス」だと告げて、それぞれクラスを担当させるという実験です。その結果、「もともと成績の良かった生徒達のクラス」の成績は下がり、「もともと成績の悪かった生徒達のクラス」の成績は上がりました。このことから、期待と成果の相関関係について、「人は期待されたとおりの成果を出す傾向がある」という結論が導かれました。生徒たちは自分かけられる期待を敏感に感じて「やる気」を出して勉強に励んだり、「やる気」を失ったりしていたわけです。「君たちは優秀な生徒だ。成績はもっと伸びる。」と応援してもらった生徒と、「お前たちは落ちこぼれだ。どうせ次のテストもダメだろう。」などと諦められた生徒ではモチベーションも成績も大きく違ってくるのは当然のことでしょう。上記の実験では、担任の言動にここまで大きな差はなかったと思われそうですが、生徒はこういったメッセージを受け取ったのでしょうか。コミュニケーションにおいては、「言葉以外の非言語な要素で話し手の93%の印象が決まってしまう」と言われています。言葉よりもそれ以外（表情、しぐさ、視線、声の質、テンポなど）の部分により大きな影響を受けるということです。成績を上げた生徒たちは担任の言葉だけでなく態度からも嘘のない期待を読み取り、それに動かされた。逆に成績を下げた生徒たちは、担任の言葉や態度からあまり期待されていないことを読み取った。そしてモチベーションとともに成績を下げたのでしょうか。

## 学校カウンセラーの予定（10月）

岸田カウンセラー 7日（金）14日（金）21日（金）28日（金）

吉村カウンセラー 10日（木）24日（木）